

2026年度  
サンプル 試験問題  
〈情報〉  
(60分)

## 情報

I 次の問い合わせ（問1～7）に答えなさい。

問1 著作権で定められた権利で、著作者の許諾を必要としない場合はどれか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号： 1

- ① 無断で口頭伝達、公衆送信を行う。
- ② 観客から料金をとるが、出演者が無報酬の場合に、著作物を上演、演奏する。
- ③ モーツアルト（1791年没）の曲を自分で演奏した動画をSNSに投稿する。
- ④ 国会議事堂、各国大使館にある銅像・写真を撮影し、放送した。

問2 データ伝送のしくみで、プロトコルについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号： 2

- ① LANやインターネット上の場所を示す。
- ② ネットワーク上で通信を行うための約束事。
- ③ ネットワーク上でデータを送る際の伝送単位。
- ④ LANやインターネット上の場所と名前を対応させたデータベース。

問3 ある正の数nを2進法で表すと10110011である。このnを10進法と16進法で表したもののが正しい組み合わせを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号： 3

- ① 179（10進）、A3（16進）
- ② 181（10進）、B3（16進）
- ③ 179（10進）、B3（16進）
- ④ 181（10進）、A3（16進）

問4 データはなるべく数値であらわす方が表計算ソフトウェアで処理がしやすい。しかし、その数値が意味する内容には注意が必要であり、データ種類として質的データ、量的データに分類される。質的データに当たるものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号： 4

- ① 西暦
- ② 金額
- ③ 温度
- ④ 成績順位

問5 情報漏洩を防止する仕組みとして、暗号化が必要とされている。第三者には意味の通じないデータに変換することを暗号化、元のデータに戻す事を復号という。暗号方式として共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式があるが、通信相手が1人の場合に2つの方式を正しく説明しているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号 : 5

- ① 共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式ともに、1つの鍵を用いている。
- ② 共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式ともに、2つの鍵を用いている。
- ③ 共通鍵暗号方式は1つの鍵、公開鍵暗号方式は、2つの鍵を用いている。
- ④ 共通鍵暗号方式は2つの鍵、公開鍵暗号方式は、1つの鍵を用いている。

問6 アルゴリズムの例として、線形探索と二分探索の方法が挙げられる。それぞれの方法を正しく説明しているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号 : 6

- ① 線形探索は、最初から順番に調べることをいう。前提条件として、データはバラバラに並んでいても問題はない。
- ② 二分探索は、中央から探すことを繰り返す方法。前提条件としてデータはバラバラに並んでいても問題はない。
- ③ 線形探索は、最初から順番に調べることをいう。前提条件として、データは昇順、もしくは降順に並んでいる必要がある。
- ④ 二分探索は、二つに分割してから探すことを繰り返す方法。前提条件としてデータはバラバラに並んでいても問題はない。

問7 SNSが発達している世の中で、利用者の情報モラルが問われている。適切と思われる使用方法を、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号 : 7

- ① 仲の良い友人でも、パスワードは共有しない。付箋・ノート等にパスワードを記載して、誰でも見られる場所に置いておくことは、セキュリティー上も良くないので、自分しかわからない場所に、パスワードを記載(保管)している。
- ② パスワードは忘れやすいので、生年月日、電話番号、単純な文字列で設定している。忘れてしまったときに思い出しやすく、便利である。複数のサイトで共通のパスワードを使用している。
- ③ インターネット上であれば、文章、画像、動画、音楽を無断でダウンロードして使っても良い。
- ④ SNSに、嘘の情報をアップロードしている。友達との関係でノリが悪いと思われたくないし、大勢にアップロードしたSNSを見てもらうとうれしい。

II 次の【A・B】の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

[A]

学園祭の模擬店としてケバブサンドを販売することになった。いくつか商品はあるが、すべて700円で金額を設定する。

販売するときに、100円玉のおつりをいくら用意すれば良いのか、最初の100食についてシミュレーションを行った。

500円玉と100円玉2枚で支払う人や1000円札1枚と100円玉2枚で500円のおつりをもらう人など様々なケースが考えられるが、今回のシミュレーションでは、1000円札で支払う人と100円玉7枚で支払う人の2パターンで行う。

1000円札で支払う人と100円玉7枚で支払う人の2つの場合では、1000円札で支払う人の方が多いと考えられるため、今回のシミュレーションでは、その割合を7:3として考える。

シミュレーションでは、表計算ソフトを用いて、乱数r(0以上1未満の数値が同じ確率で出現する一様乱数)を用いて、rが0.7以下の場合は1000円札1枚での支払い、乱数rが0.7を超える場合は100円玉7枚での支払いとして考える。

それについてまとめたものが表1である。

Aは100円玉の枚数、Bは累計の100円玉の枚数を表す。

1000円札1枚で支払った場合、Aは「-3」が入る。

	乱数r	A	B
1	0.30947	-3	-3
2	0.22453	-3	-6
3	0.21315	-3	-9
4	0.45691	ア	-12
5	0.16607	-3	-15
6	0.73129	7	イ
7	0.05580	-3	-11
8	0.82811	7	-4
9	ウ	7	3
10	0.53816	-3	0
:	:	:	:
95	0.15788	-3	-55
96	0.53471	-3	-58
97	0.74487	7	-51
98	0.16200	-3	-54
99	0.35721	-3	-57
100	0.83561	7	-50

表1 乱数rと手元の100円玉の枚数

問1 表1の空欄   に当てはまる数字を、次の①～⑦のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号：ア  イ

- ① -22 ② -14 ③ -8 ④ -7 ⑤ -3 ⑥ 0 ⑦ 7

問2 表1の空欄  に当てはまる数字を、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号：

- ① 0.15977 ② 0.34485 ③ 0.69821 ④ 0.94564

問3 表1の通り、1回目のシミュレーションでは、1000札1枚で支払った人は75人で、100人目が終了した時点での累計の100円玉は-50枚、最小値は-58、最大値は3だった。この場合、おつりは最低何枚用意しておけば足りるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号：

- ① 3枚 ② 50枚 ③ 58枚 ④ おつりを用意する必要はない  
⑤ この情報だけではわからない

問4 このシミュレーションは1回では不十分だと考え、100回行った。その結果の100円玉の最小値についてまとめたものが表2とグラフ1である。これらを説明した次のa～cの文章の正誤として適当なものを、下の①～⑦のうちから一つ選びなさい。

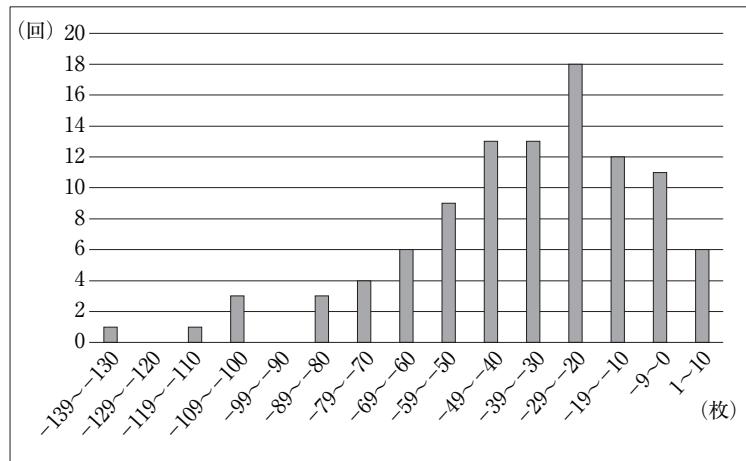
解答番号 : 12

- a おつりの100円玉が130枚以上必要な回があった。
- b -30枚以下の回が全体の半数以上だった。
- c 30人以上が700円で支払った回があった。

- ① aのみ正しい
- ② bのみ正しい
- ③ cのみ正しい
- ④ a bが正しい
- ⑤ b cが正しい
- ⑥ 全て正しい
- ⑦ 全て正しくない

100円玉の枚数	回	相対度数	累積相対度数
-139～-130	1	0.01	0.01
-129～-120	0	0.00	0.01
-119～-110	1	0.01	0.02
-109～-100	3	0.03	0.05
-99～-90	0	0.00	0.05
-89～-80	3	0.03	0.08
-79～-70	4	0.04	0.12
-69～-60	6	0.06	0.18
-59～-50	9	0.09	0.27
-49～-40	13	0.13	0.40
-39～-30	13	0.13	0.53
-29～-20	18	0.18	0.71
-19～-10	12	0.12	0.83
-9～0	11	0.11	0.94
1～10	6	0.06	1.00

表2 手元の100円玉の最小値の度数分布表

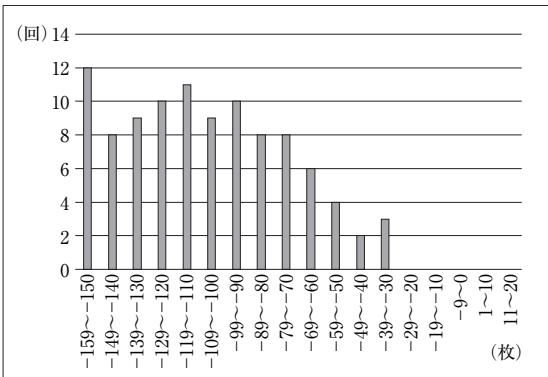


グラフ1 手元の100円玉の最小値の分布

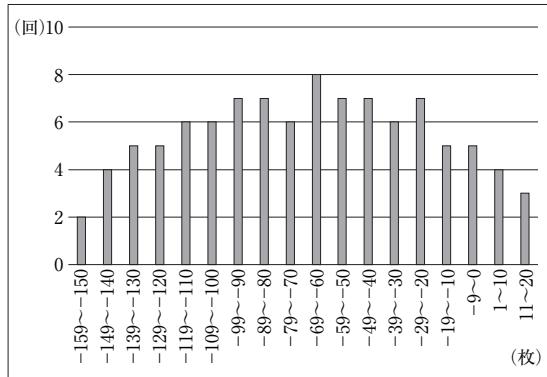
問5 1000円札で支払う人と100円玉7枚で支払う人の割合を8:2に変えた場合、100円玉の最小値の分布図はどのように変わると考えられるか。最も適当なものを、次の①～④のグラフのうちから一つ選びなさい。

解答番号：13

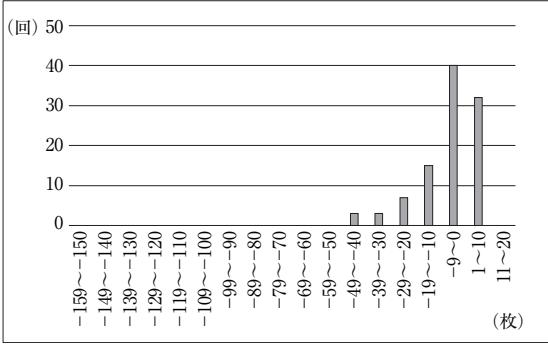
①



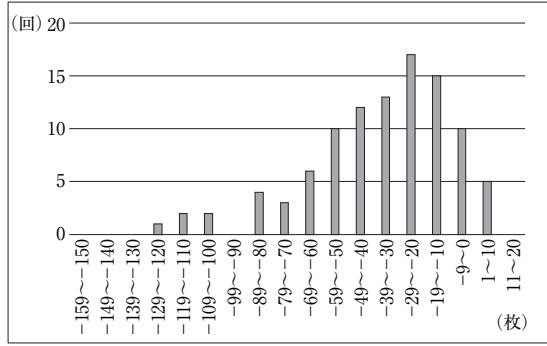
②



③



④



[B]

Aさん：数字の「101」をデジタルで表現した画像を見てみましょう。

Bさん：縦が10ピクセル、横が20ピクセルのモノクロ画像ですね。

Aさん：そうですね。この情報から画像の解像度はエ ppiということがわかりますね。

それでは、画像のデータ量はいくつになるでしょうか？

Bさん：1ピクセルに必要なデータ量はオ ビットなので、カ バイトです。

Aさん：その通りですね。画像のデータ量を考える場合は、1ピクセルに必要なデータ量と総ピクセル数がわかれれば、求めることができます。

Bさん：データ量を考えるときは、(a) 24ビットフルカラー画像の場合も同じでしょうか？

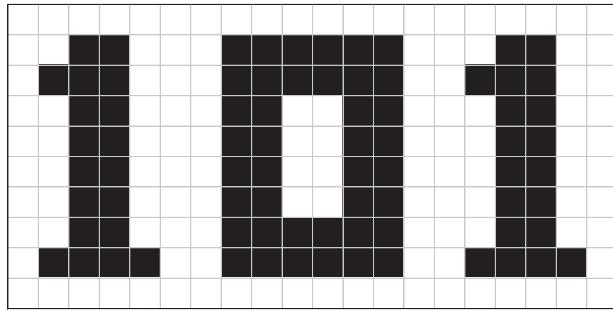
Aさん：白黒でもカラーでも考え方方は同じです。

Bさん：24ビットフルカラーの画像は似たような色でも少しずつ色が違いますね。

Aさん：Red、Green、Blueの3つの光を調整して、色を表現しています。これを(b) RGBといい、それぞれキ ビット必要です。

Bさん：ということは、1ピクセルに必要なデータ量はク ビット、縦が10ピクセル、横が20ピクセルなので、データ量はケ バイトになりますね。

Aさん：白黒画像と24ビットフルカラー画像を比較してみると、24ビットフルカラーの方がデータ量が多いことがわかりますね。



画像 モノクロ画像

問1 文章中の空欄 **エ** に当てはまる数字を次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号 : **14**

- ① 1 ② 2 ③ 20 ④ 200 ⑤ 2000

問2 文章中の空欄 **オ** 、 **カ** に当てはまる数字を次の①～⑨のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号 : オ **15** カ **16**

- ① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4 ⑤ 5 ⑥ 10 ⑦ 15 ⑧ 20 ⑨ 25

問3 下線部 (a) で表現できる色は何色か。次の①～⑥のうちから最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 : **17**

- ① 24色 ② 256色 ③ 65,536色  
④ 1,048,576色 ⑤ 16,777,216色 ⑥ ①～⑤に答えはない。

問4 下線部 (b) の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号 : **18**

- ① 24色を使って、色を表す。  
② R, G, Bの値すべてが0のときに白を表す。  
③ R, G, Bの値すべてが0のときに黒を表す。  
④ 画像の解像度に関係なく画像全体を24ビットで表す。

問5 文章中の空欄 **キ** 、 **ク** に当てはまる数字を、次の①～⑦のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号 : キ **19** ク **20**

- ① 1 ② 3 ③ 8 ④ 16 ⑤ 24 ⑥ 48 ⑦ 72

問6 文章中の空欄 **ケ** に当てはまる数字を、次の①～⑦のうちから一つ選びなさい。

解答番号 : **21**

- ① 6 ② 24 ③ 48 ④ 60 ⑤ 72 ⑥ 600 ⑦ 6000

### III

次の文章を読み、後の問い合わせ(問1・2)に答えなさい。

なお、本問題で用いるプログラム表記については以下のとおりとする。

## プログラム表記の例示

### 1 変数

通常の変数例: `kosu, kingaku_kei`

(変数名は英字で始まる英数字と「\_」の並び)

配列変数の例: `Tokuten[3], Data[2,4]` (配列名は先頭文字が大文字)

※特に説明がない場合、配列の要素を指定する添字は0から始まる

### 2 文字列

文字列はダブルクォーテーション ("") で囲む

`moji = "I'll be back."`

`message = "祇園精舎の" + "鐘の声"` ※ + で連結できる

### 3 代入文

`kosu = 3, kingaku = 300`

※複数文を1行で表記できる

`kingaku_goukei = kingaku * kosu`

`namea = "Bunkyo"`

`Data = [10,20,30,40,50,60]`

`Tokuten` のすべての値を0にする

`nyuryoku = [外部からの入力]`

### 4 算術演算

加減乗除の四則演算は、『+』、『-』、『\*』、『/』で表す整数の

除算では、商(整数)を『÷』で、余りを『%』で表す

べき乗は『\*\*』で表す

### 5 比較演算

『==』(等しい)、『!=』(等しくない)、『>』、『<』、『>=』、『<=』

### 6 論理演算

『and』(論理積)、『or』(論理和)、『not』(否定)

### 7 関数

値を返す関数例: `kazu = 要素数(Data)`

`saikoro = 整数(乱数()*6)+1`

値を返さない関数例: 表示する(Data)

表示する(`Kamoku[i]`, "の得点は", `Tensu[i]`, "です")

※「表示する」関数はカンマ区切りで文字列や数値を連結

できる

※「表示する」関数以外は基本的に問題中に説明あり

### 8 制御文(条件分岐)

もし `x < 3` ならば:

| `x = x + 1`

└ `y = y + 1`

もし `x == 3` ならば:

| `x = x - 1`

そうでなければ:

└ `y = y * 2`

もし `x >= 3` ならば:

| `x = x - 1`

そうでなくもし `x < 0` ならば:

| `x = x * 2`

そうでなければ:

└ `y = y * 2`

※ | と └ で制御範囲を表し、 └ は制御文の終わりを示す

### 9 制御文(繰り返し)

`x` を 0 から 9 まで 1 ずつ増やしながら繰り返す:

└ `goukei = goukei + Data[x]`

※「減らしながら」もある

`n < 10` の間繰り返す:

| `goukei = goukei + n`

└ `n = n + 1`

※ | と └ で制御範囲を表し、 └ は制御文の終わりを示す

### 10 コメント

`atai=乱数()` #0以上1未満のランダムな小数を `atai` に代入する

※ 1行内において # 以降の記述は処理の対象とならない

問1 次の生徒Aと生徒Bの会話文を読み、アに当てはまる数字をマークしなさい。

また、図2、3のイ、ウに入れるのに最も適当なものを、後の各解答群から一つずつ選びなさい。

解答番号：ア  22 イ  23 ウ  24

情報の授業では、生徒たちが未返却の本の件数や、特定の本の貸し出し回数を調べるプログラムを考えていた。

生徒A：私たちの高校では、図書館の貸し出し記録を図1のような形式で、データとして保存しているのね。

タイトル	返却状況
こころ	yes
坊ちゃん	yes
こころ	yes
猫	no
猫	yes
三四郎	no
それから	no
こころ	yes
坊ちゃん	yes

図1 図書館の貸し出し記録

生徒B：返却状況は"yes"が返却済み、"no"が未返却ということを表しているんだね。

生徒A：じゃあ、"no"のものを数えれば、未返却の本の数がわかるってこと？

生徒B：そうだね。つまり、図1では未返却の本の数はアとなるね。

生徒B：そこで、未返却の本の数を表示する図2のようなプログラムを考えてみたよ。記録は一番上の行を第0行、一番左の列を第0列として、第x行第y列の値が2次元配列Records[x, y]の要素に格納された形で表現しているよ。図1の場合、Records[0, 0] = "こころ"、Records[1, 1] = "yes"となるよ。

```
(01) Records[0,0] = "こころ"  
:  
    Records[8,2] = "yes"  
(02) count = 0  
(03) N = 9  
(04) iを0からN-1まで1ずつ増やしながら繰り返す：  
(05) | もしイならば：  
(06) | | count = count+1  
(07) 表示する ("未返却の本の数：" , count)
```

図2 未返却の本の数を表示するプログラム

生徒A：あと、同じ本が何回も借りられていることもあるよね。

生徒B：うん。例えば、「こころ」が何回借りられているかを表示するプログラムは図3のようにできるよ。

```
(01) count = 0
(02) N = 9
(03) title = "こころ"
(04) iを0からN-1まで1ずつ増やしながら繰り返す:
(05) |もし  ウ  ならば:
(06) | | count = count + 1
(07) 表示する(count)
```

図3 特定の本の貸し出し回数を表示するプログラム

イ  の解答群

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| ① Records[1,i] == "no" | ② Records[i,1] == "no" |
| ③ Records[0,i] == "no" | ④ Records[i,0] == "no" |

ウ  の解答群

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| ① Records[1,i] == title | ② Records[i,1] == title |
| ③ Records[0,i] == title | ④ Records[i,0] == title |

問2 次の生徒Aと生徒Bの会話文を読み、図4、5の  エ  ~  キ  に入れるのに最も適当なものを、後の各解答群からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号：エ  25 オ  26 カ  27 キ  28

生徒A：貸出件数が多い本って、人気があるってことだよね。それを一覧にして表示したら、図書館のおすすめ本ランキングを作れそうだね。

生徒B：じゃあ、まずは同じ書名の貸し出し件数を数えて、書名と貸し出し件数のセット(配列Results[書名、貸し出し回数])を作ってみよう。

```

(01) Titles = ["こころ", "坊ちゃん", "猫", "三四郎", "それから"]
(02) 配列Countsのすべての要素に0を代入する
(03) M = 5, N = 9
(04) iを0からN-1まで1ずつ増やしながら繰り返す:
(05) | jを0からM-1まで1ずつ増やしながら繰り返す:
(06) | | もしTitles[j] == Records[i, 0]ならば:
(07) | | | エ
(08) 配列resultsのすべての要素に0を代入する
(09) kを0からオまで1ずつ増やしながら繰り返す:
(10) | Results[k][0] = Titles[k]
(11) | Results[k][1] = Counts[k]

```

図4 書名と貸し出し件数を配列Resultsに格納するプログラム

生徒A：あとは、配列Resultsのデータを貸し出し回数の降順に並び替えて表示すれば完成ね。

生徒B：ここでは、次のプログラムを使って並び替えて表示してみましょう。

```

(01) iを0からM-2まで1ずつ増やしながら繰り返す:
(02) | jを0からカまで1ずつ増やしながら繰り返す:
(03) | | もしResults[j,1] < キならば:
(04) | | | temp_title = Results[j,0]
(05) | | | temp_count = Results[j,1]
(06) | | | Results[j,0] = Results[j+1,0]
(07) | | | Results[j,1] = Results[j+1,1]
(08) | | | Results[j+1,0] = temp_title
(09) | | | Results[j+1,1] = temp_count
(10) kを0からM-1まで1ずつ増やしながら繰り返す:
(11) | 表示する(k+1, "位", Results[k, 0], ":", Results[k, 1], "回")

```

図5 貸し出し回数の多い順に表示するプログラム

**工** の解答群

- ① Counts[j] = Counts[j]+1      ② Counts[i] = Counts[i]+1  
③ Counts[j] = Counts[i]+1      ④ Counts[i] = Counts[j]+1

**才** の解答群

- ① M      ② M-1      ③ N      ④ N-1

**力** の解答群

- ① M-1-i      ② M-2-i      ③ M-i      ④ M

**キ** の解答群

- ① Results[j+1,1]      ② Results[j,1]  
③ Results[i+1,1]      ④ Results[i,1]

## IV

次の問い合わせ（問1～9）に答えなさい。

問1 ある会社のコンピュータによる通信ネットワークを、クライアント機となるコンピュータにLANケーブルでつなぎ、ハブとルーターを用いることで1つのネットワークにした。そのネットワーク構成図として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。ただし、選択肢中のA、B、Cはクライアント、ハブ、ルーターのいずれかである。

解答番号： **29**

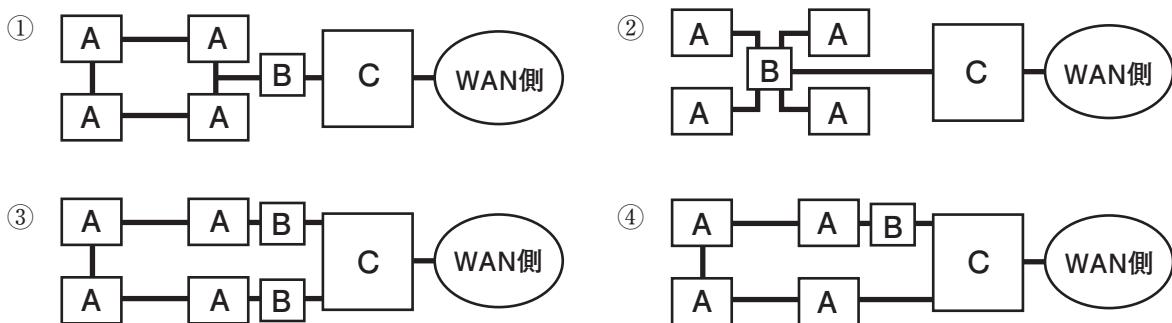


図1 ネットワーク構成図

問2 図1のA・B・Cの構成機器の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選びなさい。

解答番号： **30**

- |            |          |          |
|------------|----------|----------|
| ① A ルーター   | B クライアント | C ハブ     |
| ② A ルーター   | B ハブ     | C クライアント |
| ③ A クライアント | B ハブ     | C ルーター   |
| ④ A クライアント | B ルーター   | C ハブ     |
| ⑤ A ハブ     | B ルーター   | C クライアント |
| ⑥ A ハブ     | B クライアント | C ルーター   |

問3 図1の中のルーターの役割として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号： **31**

- ① ルーターはネットワーク内のデータを保存する。
- ② ルーターはデータを暗号化する。
- ③ ルーターはインターネット上のメール受信の役割をする。
- ④ ルーターはネットワーク間のデータ転送と経路選択をする。

問4 コンピュータネットワーク上のデータ通信の実際のやり取りでは、一度にデータを送るのではなくデータを小分けにした伝送単位である( **D** )に変換している。受け取り側が受信後に再度組み立て直して、元のデータに戻す( **E** )の仕組みの中でやり取りをしている。

上記の空欄( **D** )、( **E** )に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号 : **32**

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| ① <b>D</b> TCP／IP | <b>E</b> パケット   |
| ② <b>D</b> パケット   | <b>E</b> TCP／IP |
| ③ <b>D</b> DNS    | <b>E</b> TCP／IP |
| ④ <b>D</b> パケット   | <b>E</b> Wi-Fi  |

問5 インターネット上のコンピュータに割り振られる番号を( **F** )といい、インターネット上の情報の場所を示す( **G** )には( **H** )が用いられている。ネットワーク管理を行う際に( **H** )を( **F** )に変換する場合は( **I** )サーバーがその変換を行っている。

上記の空欄( **F** )～( **I** )に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号 : **33**

- |                   |              |                 |                 |
|-------------------|--------------|-----------------|-----------------|
| ① <b>F</b> IPアドレス | <b>G</b> URL | <b>H</b> ドメイン名  | <b>I</b> DNS    |
| ② <b>F</b> ドメイン名  | <b>G</b> URL | <b>H</b> DNS    | <b>I</b> IPアドレス |
| ③ <b>F</b> ドメイン名  | <b>G</b> DNS | <b>H</b> IPアドレス | <b>I</b> URL    |
| ④ <b>F</b> IPアドレス | <b>G</b> DNS | <b>H</b> URL    | <b>I</b> ドメイン名  |

問6 リレーショナルデータベースの扱いにおいて「選択」を示す図表はどれか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号 : 34

① 実表 → 仮想表

No	品目	商品ID	製造工場
1	鉛筆	101	東京
2	下敷き	102	東京
3	三角定規	103	東京
4	カッター	104	大阪
5	消しゴム	105	大阪
6	サインペン	106	大阪

No	品目	商品ID	製造工場
6	サインペン	106	大阪
5	消しゴム	105	大阪
4	カッター	104	大阪
3	三角定規	103	東京
2	下敷き	102	東京
1	鉛筆	101	東京

② 実表 → 仮想表

No	品目	商品ID	製造工場
1	鉛筆	101	東京
2	下敷き	102	東京
3	三角定規	103	東京
4	カッター	104	大阪
5	消しゴム	105	大阪
6	サインペン	106	大阪

No	品目	商品ID
1	鉛筆	101
2	下敷き	102
3	三角定規	103
4	カッター	104
5	消しゴム	105
6	サインペン	106

③ 実表 → 仮想表

商品ID	品目
101	鉛筆
102	下敷き
103	三角定規
104	カッター
105	消しゴム
106	サインペン

商品ID	価格
101	100
102	50
103	100
104	200
105	100
106	50

商品ID	品目	価格
101	鉛筆	100
102	下敷き	50
103	三角定規	100
104	カッター	200
105	消しゴム	100
106	サインペン	50

④ 実表 → 仮想表

No	品目	商品ID	製造工場
1	鉛筆	101	東京
2	下敷き	102	東京
3	三角定規	103	東京
4	カッター	104	大阪
5	消しゴム	105	大阪
6	サインペン	106	大阪

No	品目	商品ID	製造工場
1	鉛筆	101	東京
2	下敷き	102	東京

【解答】サンプル問題 情報

	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7
I	1	2	3	4	5	6	7
	③	②	③	④	③	①	①
	問 1		問 2	問 3	問 4	問 5	
II [A]	8	9	10	11	12	13	
	⑤	③	④	③	⑥	①	
	問 1		問 2		問 3	問 4	問 5
II [B]	14	15	16	17	18	19	20
	④	①	⑨	⑤	②	③	⑤
	問 1			問 2			
III	22	23	24	25	26	27	28
	③	②	④	①	②	②	①
	問 1		問 2	問 3	問 4	問 5	問 6
IV	29	30	31	32	33	34	
	②	③	④	②	①	④	